

じょうようのほくし

城陽市社協
マスコット

あ 社協だより



共同募金配分金で作成しています

発行 社会福祉法人 城陽市社会福祉協議会
城陽市寺田東ノ口17 福祉センター1階

TEL 0774(56)0909
FAX 0774(56)2800
<http://www.kyoshakyo.or.jp/joyo/>

平成28年春発行
第115号



第37回城陽市社会福祉大会 開催しました

平成28年2月20日（土）に文化パークで第37回城陽市社会福祉大会を開催しました。第1部の式典では、地域の福祉活動において功績の顕著な方々や団体に対し、市長からの表彰状と市社協会長からの表彰状及び感謝状を贈呈しました。第2部の第10回児童・生徒の福祉作文コンクールでは、最優秀賞の方3名に表彰状を贈呈し、作文発表をしていただきました。第3部の講演では「災害に対応できる地域力」について、一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンターの上島安裕氏に講演していただきました。雨がたくさん降る中、たくさんの方々に参加していただきありがとうございました。

の椅子や、普通に座る所の支えなどもレンタルされています。今、祖母が暮らしにけるのは、福祉のおかげだと思います。私は、時々祖母の家に遊びに行っています。最近、祖母は少しずつ元気になってきました。祖母は、「こんなに元気になれたのは、介護士さんのおかげだ。」と言っていました。私も、その通りだと思います。私は、介護士さんたちにとっても感謝しています。そして、祖母がいてくれるありがたさを改めて感じています。もし、祖母の体力が回復したら、また二人で外出したいと強く思いました。

「住みやすい世の中を目指して」

富野小学校六年 青木 ひな子



「大変そうだな。」これは、わたしが電車に乗るときに思ったことです。わたしが三年生の時に、目の不自由な人がつえをついて電車に乗っていました。その人は、そこにある手すりや点字ブロックを頼りに歩いていました。電車に乗るときはホームとの間にすき間もあって、とても大変そうでした。その時に助けてあげる人はいませんでした。わたしは、はずかしい、と助けてあげることができませんでした。

その後、わたしが目が見えなくなりました時のことを考えてみると、音や感覚を頼りに動かないといけないから、私なら、少し移動するにも他の人に迷惑をかけてしまうんじゃないかと心配になりました。そう考えると、あの時助けていれば良かったと思いました。

最近になって、わたしの地域や遠くに出かけたところで点字ブロックの上に自転車やバイクが置いてあるのを見ました。これは、目の不自由な人にとって、とても迷惑だと思えます。なぜなら、点字ブロックは、目の不自由な人が交差点でとまる場所や、進むべき道を示しているものです。その点字ブロックの上にもものを置くことは目の不自由な人にとって移動しにくく、とても危ないからです。点字ブロックを頼りに歩いているので、点字ブロックをよけて歩くことは頼りがなくなってしまう、事故にあったり、人やものにぶつかったりする可能性が高くなります。

わたしは、障がいを持った人と出会うと、助けてあげた方がいいのかな、と最初は思います。でも、やっぱりはすかしいという気持ちも少ししたら助けられない方がいいのかな、などと考えて出られることがあります。わたしと同じように思っている人もたくさんいると思います。でも、障がいを持っている人も、できることがたくさんあるから助けはいらぬのでは、という人もいます。前までは、わたしもそ

う考えていました。しかし、目の不自由な人が、外を歩くということは、すごく心配な気持ちになることがわかった。声をかけることが大切だと思います。声をかけてもらうことで、安心する人もいるのではないのでしょうか。

また、その人のできることもできないことに関わらず、点字ブロックの上にもものを置くことは別だと考えなくてはなりません。なぜなら、点字ブロックを頼りに生きている人が困るからです。だから、点字ブロックを作った意味をみんなが理解することが大切だと思います。

障がいを持った人にも住みやすい世の中となるように、点字ブロックの上にもものを置かないことや、目の不自由な人が頼りにしているものの正しい使い方についてみんなに知ってほしいと思います。

障がい者も健常者もやっぱり同じ人っていうのは変わりがないことだし、人によってできることできないことがあります。わたしにも、できることできないことがあります。だから、障がい者も健常者も何でもできるというわけではないからみんながそのことを理解して、住みやすい世の中にしていく事が大切だと思います。

わたしは、今までをふり返ると、人とつきあうときは、自分のことばかりを考えていた時もありました。障がいを持った人と出会っても、少し距離をおいていた時もありました。しかし、これからは、相手の人のことをちゃんと考えて、困っているときにはお互いに助け合う気持ちを大切にしていきたいと思っています。

「私にしかできないこと」

西城陽中学校二年 木原 萌



「あそびの会に行ってみる？」

この誘いが、私の障害に対する思いを変えた。

私は、吃音という言語障害をもって、今まで生きてきた十四年間、この障害で良い事があった訳でもない。だが、一度だけ、障害をもっていて良かった、と思う時があった。

それは、小学校二年生の時のこと。小学校にこぼるときえの教室という、言葉に障害をもつ子や耳に障害をもつ子が通う教室があった。私もその教室に通っていて、その時にいつも指導してくれる先生から例の誘いがあったのだ。あそびの会、と名付けられた行事は、小学生で吃音をもっている子達が集まって、交流をするというものだった。そして私は、行きますと言った。なぜ行きたいと思ったのかはあまり覚えていないが、今思うとただ単に自分と同じ苦しみをもっている人に会いたかったのだらう。

そして、あそびの会当日。自己紹介から始まり、たくさんのゲームをした。そのどれもが、人とコミュニケーションをとらないといけないものだった。偶然にも、同級生の女の子としゃべることになった。時間がたつとともに私達は打ち合ってきた。

あそびの会で学んだことは数えきれないほどあるだろう。その中でも私は、今でも覚えていることがある。それは、私だけじゃないってこと。今までは、どうせみんなにわからない。何で私だけが、と思っていた。でも、私と同じ苦しみを感じている人はたくさんいる。私だけが特別じゃないんだ。そう思えるようになった。

今の私には、どこか吃音に向き合えない自分がある。言いたい言葉も避けて、周りの人に本当の私を隠しているのだ。でも、このままではいけない。このままだったらあそびの会に行っただけじゃない。あそびの会で感じた一人じゃないという言葉が、今の私には跡形もなく消えている。どうしたらあの思いがよみがえるのだろうか。それは、考えること。書き留めること。それが、今の私に必要なことであり、今の私にしかできないことだと思つた。

そしてそれを書いて思ったことは、私は障害者として生まれてきてよかった。ということ。健常者でもその障害者によりそって一緒に考えたり悩みを聞いてあげることが出来る。それも何かの役に立つかもしれない。だが、健常者の体が障害者の体になりきるわけでもない。障害者の体は障害者同士でしか分からないことが山ほどある。たとえ親でさえも。だから私は、私と同じ障害をもっている人のそばにいてあげたい。強くそう思った。そうするためには、ボランティア活動をしなければならぬ。だから、私はVACという中学校でボランティア活動をしている組織に入っている。そして大人になったら、あそびの会のような行事にスタッフとして行ってみたい。私が障害をもっている、ということを見え隠れせずに生きたい。いつか、吃音という障害をもつて生まれてきたことに誇りを持ちたい。これが、今の私だから考えられる、大切な思いである。

障害者が多く存在するこの世界は、健常者ではかばえきれない多くの悩みがある。それは、同じ障害をもつた者同士でしか理解できない部分もあると思う。だから私は、その悩みを聴いてあげる人になりたい。これが、私が障害をもつて生まれてきた意味だと思つた。

心温まる作文を発表していただき、ありがとうございます。



校区社会福祉協議会祝20周年

各校区社協の会長に校区社協の活動内容や活動を通して感じていることなどに対するコメントをいただきました。

久津川校区社協

我が社協共は、自治会連合会、体振、高齢者クラブ、民児協、PTA、子供会後援会を始めとする、総勢93名の人員の力を集めて、運営しています。常は、各自治会別で10班の運営委員さんの力を借りて、月2回のふれあいサロンを実施していただいております。その他には、年に1度の敬老会の実施、年に2回の高齢者の食事会の開催、高齢者の見守り活動の実施など多種にわたって実施をしています。特に、ふれあいサロンでは常は手芸の催しが主ですが、時には健康教室と題して地域の有識者を招いて、講義を受けたり、健康体操を実施して、参加者が和気藹々と、参加されています。また、サロンを中心に福祉委員同士の輪も広がっていき、幾つかのサークルが出来つつあります。

会長 大下 利寛



敬老会

古川校区社協

祝・20周年！おめでとう。平成7年発足から20年、自治会長をはじめ関係団体のみなさんと連携して、「あの人の幸せを 私の幸せに」をスローガンに安全・安心のまちづくりに日々努力してまいりました。更にみなさんのご期待にそえるよう、お一人暮らし高齢者の見守り活動をはじめ、家庭での閉じこもりをなくすため、ホッとサロン・施設見学・健康講座・研修会等を企画、実施しております。今後とも、より一層のご参加をお待ちしております。

会長 堀江 勉



男の料理教室

久世校区社協

昨年の4月に校区社協の会長を引受けて丁度1年、振り返ってみますと社協自体の流れを掴むことが精一杯で、事業においては前年度からの踏襲ばかりで、何一つ新しい試みが出来なかったことに対して深く反省しています。今日急速なる少子高齢化社会の進行による家族の少人数化や、地域社会の絆の希薄化（お陰様で久世校区においては子供達の人数は増えていますが）によって孤立や孤独死、閉じこもり等が発生しています。当校区社協においては誰もが心から安心して暮らせるよう、地域における福祉課題の解決と整備、又住民の皆さんによる太い絆のつながりがより強きものになるよう日々目指しています。私共のメイン事業である敬老会。この敬老会について20周年を迎えるのを期に、今までの一方通行型から、参加者と開催する側がもっと一体感を持てる会に出来ないか、協力していただいている諸団体とも相談しながら模索してまいりたいと考えております。今後地域の皆さんから校区社協があって安心だと言われる組織を目指していきたいと思っております。最後に、当校区の地域福祉活動の展開や支援をする取組みについて何かヒントがあれば助言をお待ちしております。

会長 谷口 重彦

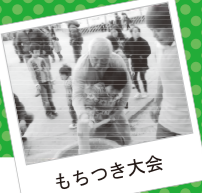


敬老会

青谷校区社協

青谷校区社協の20年という歴史は、その歳月に汗を流していただいた役員、民生委員さんの努力と、校区民の地道な募金や協力のおかげで今日があります。青谷の特徴は民生委員と社協が両輪として活動していることです。年6回の食事会では、80人近い方が参加され、お弁当とイベントに楽しまれています。毎年子供と保護者の400人が参加されるもちつき会、運動会の多様な模擬店と、役員は地域社会の中で元氣いっぱい活動しています。

会長 畑中 完仁



もちつき大会

深谷校区社協

校区社協は拠点（寺田尼塚）をセンターとして活動を行っています。毎月発行の社協ニュースによる情報提供、次世代に向けての親子の集い（年間45回）、安否確認を兼ねた高齢者向け配食事業（年間10回700食）に力を入れています。いずれも大切な事業であり継続性が求められています。この他に各事業部とも皆さんに喜んでもらえるように様々なアイデアを出しながら活動中です。子供が少なく高齢者の多い校区ですが、明るく安全に暮らせる事を念頭に、各方面の方々のご協力をいただきながら日々精進いたしております。

会長 近藤 満雄



お正月あそび大会

寺田校区社協

寺田校区社協が発足して20年、今日まで築いてこられた先輩諸氏に敬意を表します。当社協は「向こう三軒両隣」を合言葉に事業を行っており、ふれあいサロンは自治会の高齢者クラブの協力を得て交流を深めています。また広報紙では地域の皆様にも寄稿していただき、自治会行事等を紹介しています。一方委員の高齢化は深刻で、若い方にも気楽に参加してもらえる魅力ある体制作りが急務です。

会長 藤本 露子



ふれあいサロン

寺田南校区社協

寺田南校区は、平成27年度の活動内容を報告させていただきます。福祉バザー、敬老会、左義長の3事業の実施と、年間を通じて各地域のミニサロンを助成し、高齢者健康料理の集いを年6回開催しています。また、平成26年度より校区防災訓練時には配食訓練を行うこととなりました。事業推進には多数の団体や個人にご協力を願っています。また、継続して、社協だより「あじさい」等の機関紙を発行しております。今後も安心安全で心ふれあう福祉のまちづくりを目指したいと思っております。

会長 山口 武敏



配食訓練

寺田西校区社協

近鉄寺田駅の西側に位置する寺田西校区は、自治会世帯数約2,600世帯、社協会員数約2,100人です。65歳以上の高齢化率は36.1%で、市内で一番高く少子高齢化を最も表しています。今日の課題は、近鉄線西側にスーパーマーケットがなく「買い物難民」とされることです。また、古川の改修や工事車輛の通行が増し、安全対策に注意しています。社協活動にご支援いただいた方にはどうぞご連絡ください。みんなで築く社会福祉！！

会長 本城 隆志



敬老会

今池校区社協

今池校区には、3,769世帯(9.1%)、8,164名(9.6%)の人々が大きな事件・事故もなく平穏な生活を過ごしておられますが、高齢化率は右肩上がりです。65歳以上の高齢者は2,483名(9.6%)、小学生は315名(12.2%)です。(％は城陽市を100%とした場合の比較)また現在、城陽インターチェンジの建設が進められております。これが完成すれば生活環境も大きく様変わりするでしょう。変化に即応していける対策をより早く実現する為に情報の収集に努力していかねばならないと考えております。今池校区社協は、毎年5月中旬に総会を開催し、市社協と校区社協の事業報告と当面の事業計画・予算案を審議し決定します。運営組織は、幹事会と事業部・広報部・ボランティア部・福祉ネットワーク部があり、それぞれに活動計画を立案します。(各部の実施内容の詳細については、紙面の関係上割愛いたしましたが、「福祉いまいけ」にて報告しています)

会長 小林 保夫



バザー



敬老会

富野校区社協

平素は富野校区社協に、格別のご協力・ご指導を賜り、こころから御礼申し上げます。皆さんに、自助・共助の場の一つとして活用していただこうと、考えをめぐらし活動しておりますが力不足の連続です。これを打破するには、より多くの皆さんの参加と新しい力による活動の活発化です。伝統は継承するものではありません。革新・改革が創り出すものです。この節目の年にこころを一つにして、よりよい校区社協づくりに参画しましょう。

会長 高須 達雄

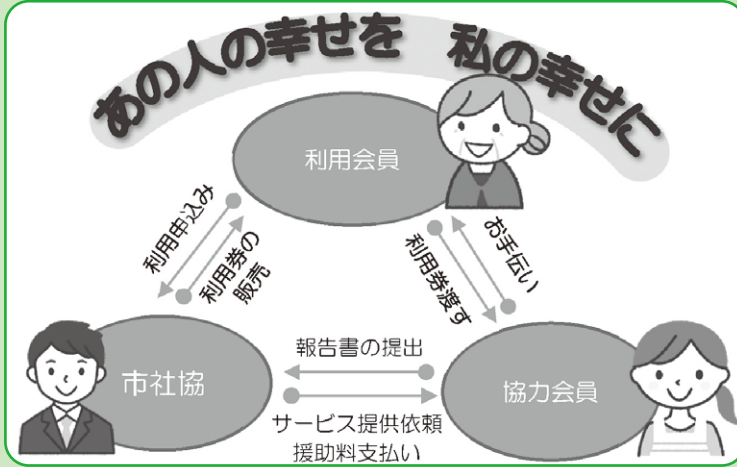


平成7年度、だれもが住みやすい地域をさらに推進させるため、従来の「市社協支部」から「校区社会福祉協議会」へ再編強化され、校区内住民の参加、団体の創意に基づく任意組織としての拡大が図られました。当初は、市社協支部の頃から行っていた敬老会や高齢者料理教室・福祉バザーなどの取組みが主でしたが、設立から5年ほど経つと、地域住民の様々なニーズに答えるため、ご近所見るネットやふれあいサロンなど新たな事業も展開されていきました。地域関係の希薄化が進むなか、最近では男性の料理教室やふれあいカフェなど、今まで地域行事への参加があまり見られなかった層の参加を促すものや、気軽に参加できるものなど、時代の変化に沿った催しが展開されてきています。また、各校区によって特色のある行事も行われています。

地域で困っている方のお手伝いをしてみませんか？

市社協では「住民参加型相互援助サービス」という日常生活を営むのに少し支障があるけれども、公的な福祉制度の対象とはならない世帯に対し、地域住民同士で助けあえる仕組みのつなぎ役をしています。

協力会員 大募集！！



① 主にどんなことをするの？

- ・住居などの掃除
- ・衣類の洗濯・補修
- ・生活必需品などの買い物
- ・その他必要な家事



② 無償とするの？

- ・有償の援助にすることによって、利用者側の遠慮や気づまりを取り除くことを目的としています。

↓ 詳しい料金体系 (1時間あたり)

	平日(月～土)	休日(日・祝)
9:00～17:00	800円	1,000円
5:00～9:00	1,000円	1,250円
17:00～22:00		

③ 資格や経験などは必要なの？

- ・この事業に理解と熱意をもっていただける、城陽市在住の方でしたら、資格や経験は問いません。また、少しでも不安が取り除けるよう、市社協がサポートします。

④ 興味が湧いた！

- ・城陽市社会福祉協議会までお問合せください。

TEL:0774-56-0909

第4回 ボランティアフェスティバル 大盛況でした！！

第4回ボランティアフェスティバルを2月28日(日)に、城陽ボランティア連絡協議会等協力のもと開催いたしました。一般参加者約150人、ボランティアスタッフ約100人の延べ250人が来場し、たくさんの笑顔が溢れました。ボランティア体験をすることで、ボランティアをより身近に感じていただける機会となったのではないのでしょうか。



平成27年9月11日～11月30日まで募集していた

「茨城県台風18号等災害義援金」に

ご協力いただきありがとうございます



義援金: 33,858円

ご寄付いただいた義援金は、京都府共同募金会が取りまとめ、茨城県に送られました。

城陽市社協へのご寄付 ありがとうございました！

城陽市社会福祉協議会が行う事業のためにご寄付をいただいた方・団体を紹介します。

(平成27年12月1日～平成28年2月29日現在)【敬称略】

○ 市	瀬	寄付金	10,000円
○ 匿名	名	寄付金	500,000円
○ 匿名	名	寄付金	500,000円
○ 城陽ビデオクラブ		寄付金	1,505円

ご寄付は、本会の善意銀行等に積み立て、城陽市で行う地域福祉やボランティア活動の推進に活用させていただきます。

また、上記の他に平成27年11月8日に開催しました「城陽福祉ふれあいまつり」で社協だより114号で紹介した団体の他に1団体から24,600円のご寄付をいただきました。

このご寄付は城陽福祉ふれあいまつりの活動に活用させていただきます。

今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

